

議題（1）

県立日南病院の病床再編に係る病床削減について

（説明）

・県立日南病院の病棟再編については、令和6年8月1日に開催した第1回地域医療構想調整会議において、令和6年12月1日から52床を休床する旨県立日南病院から報告があったところですが（資料1-1参照）、その後、当該休床分について、令和6年度末をもって削減する方向となっていることから、協議を行うものです。詳細は別添資料1-2をご覧ください。

令和6年8月1日
県立日南病院

県立日南病院の病棟再編について

1 経緯

日南病院の経営に関しては、昨年度の県議会等において取り上げられたとおり、非常に厳しい状況が続いている。特に新型コロナ感染症の明けた令和5年度は、令和4年度比較して、医業収益は改善したものの、ここ数年の人件費・物価高騰の影響により経費が増加したことに加え、コロナ病床確保料が大幅に減少したことにより、前年度から赤字額が倍増しております。

こうした厳しい状況に対応するため、日南病院では、今年度から経営改革に取り組んでおり、最優先事項として「病棟再編」に着手しているところです。

2 病棟再編の概要

院内に設置した「日南病院経営改革院内プロジェクトチーム」において、病棟再編（案）について検討し、以下のとおり決定しました。

- ① 診療科ごとの病床数を調整、配置転換し、このうち52床（4階西病棟）を休床とする。
 - ※ 病院全体で281床⇒229床となる。
 - ※ 空いた4階西病棟については利活用（倉庫、休憩室等）を検討
- ② 休床の開始時期については、令和6年12月1日（日）とする。

3 地域医療への影響について

今回の病棟再編（病床削減）に関しては、診療機能の変更や休診等を伴うものではなく、12月1日に向けて一部患者の転棟はあるものの、患者の受け入れを制限するものではありません。

また、4月から7月初旬までの病床稼働率は約60%で、52床削減したとしても、入院治療に支障はありません。

令和 7 年 3 月 5 日

日南串間地域医療構想調整会議 議長 殿

宮崎県立日南病院
院長 原 誠一郎

病棟再編に係る病床削減について

1 病院概要

- (1) 病院名 宮崎県立日南病院
 (2) 診療科目 内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、
 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射
 線科、歯科口腔外科、麻酔科、脳神経内科、臨床検査科、病理診断科
 精神科（休診）、心療内科（休診）
 (3) 病床数 一般病床 277 床、感染症病床 4 床

2 病床削減の内容

	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	計※
削減前 (R6.12.1～)	4	221	0	0	52	277
削減後 (R7.3月末～)	4	221	0	0	0	225
増減	0	0	0	0	△52	△52

※一般病床のみ。感染症病床 4 床を除く。

3 病床削減の背景・理由

新型コロナ感染症の 5 類移行後、患者数がコロナ以前の水準（R 元年度稼働率：80.1%）まで回復しておらず、令和 6 年 11 月時点で R 6 年度稼働率が 60.3% まで落ち込み、日南串間医療圏の医療需要が今後も減少し続けていくことが見込まれています。圏域の適切な病床数を精査し、病床稼働率の向上と経営の効率化を図っていく必要がありましたため、令和 6 年 12 月から 4 階西病棟を休床し、検証を行ってまいりましたが、この度、今年度中に休床分を削減する方向となっております。

4 病床削減後における当院の役割

令和 6 年 12 月以降、ベッドコントロール等での患者の受け入れ調整を図り、患者の受け入れ制限など地域への影響は及んでおりません。稼働率については、令和 7 年 2 月が 74.3% まで回復しており、現状では一定の受け入れ余力も残しております。引き続き、日南串間医療圏の医療需要に対応し、地域医療の充実に貢献してまいります。